

これまでの意見、お試し活動、ワークショップの振り返り

宮の沢の将来イメージ

宮の沢駅周辺が地域の中核

地域住民に親しまれる拠点

賑わいのあるまち

宮の沢らしさ



賑わいづくりに向けて

拠点機能を高める

地域資源の活用

まちづくりの発信

宮の沢地区の賑わいは、イベントなどの「ハレ(非日常的)」の賑わいと合わせて、「ケ(日常的)」な暮らしの中での、まちを利用することや会話・コミュニケーション、人の活動が見える賑わいもある。

《ハレとケ、にぎわい》

ハレ：特別な行事がある日のことを指す。

ケ：普通の日、日常のことを指す。

取組アイデア

■地域資源の活用

- ・ちえりあで休憩して、その後周辺施設に足を伸ばしてもらおう工夫(気軽に立ち寄ることができる動線上に飲食店)
- ・地域住民だけが知る地域資源の掘り起こしと発信
- ・地域資源を線でつなぎ観光スポットとして売り出す
- ・地域住民が気軽に集まることができるスポットとしての白い恋人パーク
- ・子どもが楽しむことができるミュージアム
- ・コンサドーレやファイターズとコラボしたお守りの販売
- ・西のコンサ通りを地域のシンボルにする

■情報発信

- ・上手稲神社や手稲記念館などの地域資源のPR(上手稲神社の鳥居から日の出が見えることなども)
- ・SNSを活用した地域情報の発信
- ・マップづくり(多言語化や高校生と連携)
- ・イベントボードや店舗の電光ビジョンなどの活用
- ・コンサドーレのフラッグの設置(八戸のうわさプロジェクトのような仕掛け)
- ・パスターミナルでの情報発信(バス会社と連携)

■環境整備・案内サイン

- ・地域資源へ誘導するわかりやすい案内サイン
- ・WiFiの整備(外国人観光客にも対応)

■交流の場や機会づくり

- ・住民や来訪者に滞留してもらうために飲食できる場所をつくる

■イベント

- ・石屋製菓と児童会館との連携・協力によるお祭りの開催
- ・様々な団体が連携したイベントの年数回の開催(ちえりあフェスティバルでのピアガーデンやステージイベントなど)
- ・ちえりあ広場の有効活用(生涯学習・まちづくり関連であれば利用可能)
- ・年間を通じた毎月イベントの開催(そこに行けば何かやっているように)
- ・イベント情報の集約と発信(イベントカレンダー)

■子ども

- ・子どもが企画運営する児童会館祭りの開催
- ・冬季や雨の日も子どもが遊べる広いスペースの確保

■若い世代との連携

- ・高校や若者活動センターとの協力

第4回まちづくり協議会(7月10日)

【主な意見など】

■まちづくりのマネジメントを推進する組織づくりの必要性

- ・プロジェクトを継続的に実践できる仕組み・組織を構築していくことが必要である。
- ・各団体から広告料や出資を募って、原資を確保することが必要である。

■情報発信を強化

- ・宮の沢まちづくり協議会のフェイスブックページで、情報発信を行えると良い。
- ・地域のマップはあるといい(商店会が発行しているものと精査は必要)。

■冬のイベント(雪だるまイベント、イルミネーション)

- ・ちえりあ広場で雪だるまづくりのイベントは、もっと人気が出そう。
- ・石屋製菓社では、札幌市が新三大夜景に選ばれ、イルミネーションを強化予定。

■地域を案内する地元ガイド

- ・外国人観光客対応のガイドがいるとよい。町内会には英語が話せる人もいる。

■ちえりあ広場活用と連動した人が集まる仕掛けづくり(オープンカフェ、マルシェ)

- ・『ちえりあカフェ』としてオープンカフェを企画している。
- ・スイーツ(フィリア)、和菓子、パン屋、キッチンカーが出店するマルシェを行なう。
- ・毎週、毎月の単位でマルシェを実施し、賑わい創出する。

ちえりあフェスティバル(8月26、27日)

【メッセージ】

■ちえりあ広場の活用

- ・マルシェができると賑わいが出るのではないかな。

■飲食店など「食」を楽しめる場所

- ・気軽にランチを楽しめる飲食店があると良い。
- ・子育て中のママたちが、ゆっくりと食事ができる店舗(飲酒店)があると良い。

■集まる・交流する・時間消費できる場所

- ・本屋、おしゃれなカフェなど集まったり、時間を楽しめる場所がほしい。

【お気に入り・おススメのスポット】

■グルメ、自然・みどり、歴史文化、地域のイベントなど

- ・飲食、スイーツ、パン、カフェ、公園、手稲記念館、白い恋人パーク、ちえりあフェスティバルなどがあげられている。

宮の沢まちづくりワークショップ(9月21日)

【主な意見】

■10年後の宮の沢のイメージ

- ・宮の沢駅・ちえりあを拠点に、たくさんの人々が「交流」することで「賑わい」が生まれ、さらに地域の「コミュニティ」が充実しているまちが良い。
- ・訪日外国人も含めて、「観光」の視点と地域の「暮らし」の視点が大切である。

■将来のイメージを実現させるアイデア

- ・海外の人向けに冬の魅力を伝えるイベントなどを行う。
- ・飲食・休憩ができる機能を充実させて、時間消費を促す。
- ・ちえりあ広場など地域の拠点を活かして、マルシェを開く。
- ・空き家をリノベーションして、地域の交流拠点にする。
- ・スマートフォンで見たり調べたりすることができる情報発信・案内を行う。
- ・マップづくり、観光ルートづくりを、子どもとまち歩きして作る。
- ・サイクリング、スタンプラリーで白い恋人パーク以外の魅力を周遊してもらう。
- ・地域の人ガイドになり、地域住民も外国人と交流できるプログラムを作る。
- ・暮らしを支える(見守り、買物など)仕組みや取組を行なう。

観光・暮らしの視点を持った宮の沢の賑わい

情報発信
案内

オープン
スペース
の活用

集客
滞留
時間消費

拠点から
周遊・回遊

地域と
来訪者の
交流

冬の魅力
(海外向け)

既存ストック
の活用

人材育成
(子ども)

暮らしを
支える
仕組み

まちづくりの
マネジメント

はじめに

第1章 まちづくり計画について

- 1. 計画策定の趣旨、位置づけ
- 2. 策定の経緯(プロセス)

第2章 宮の沢を取り巻く社会背景

- 1. 人口減少・少子高齢化
- 2. 訪日外国人の動向
 - ・訪日外国人の増加
 - ・新千歳空港の民営化、エアポート輸送力強化の検討
- 3. 新たな暮らしと価値観の到来
 - ・AI/Iotでつながる、シェアする社会

第3章 宮の沢の現状と地域特性

- 1. 位置・交通
- 2. 人口動向
- 3. 建物・施設等の状況
- 4. 地域資源(観光、歴史文化、緑)
- 5. 入込状況、来訪状況
- 6. 地域活動

第4章 宮の沢のまちづくりの課題

1. まちづくりの課題

- 地域資源の活用とPRの必要性
 - ・地域資源を掘り起こし、活用や発信・PRすることが必要。
- 集う・交流する・滞留する機能が不足
 - ・飲食機能、休憩機能、交流機能が少ない。宿泊施設がない。
 - ・気軽に立ち寄る、憩うことができる場が少なく利用者の滞在時間が短い。
- まちの賑わい・活気が感じられない
 - ・通過点となっており、地域の賑わいづくりの取組が必要。
- 地域への愛着、担い手づくり
 - ・地域の子供達や若い世代との交流、地域への関心・愛着を高める必要がある。

2. まちづくりに求められる視点

観光の視点 ↔ 暮らしの視点

3. まちづくりの方向性

- 拠点機能の向上が必要
- 地域資源の活用が必要
- 情報発信・案内の向上が必要
- まちづくりの仕組みが必要
- まちへの愛着・誇りの醸成が必要

第5章 宮の沢の目指す将来像と基本目標

- 1. 将来像
- 2. 将来像を実現するための基本目標

人とまちが
つながる
賑わいあふ
れるまち
～人・モノ・情
報が行き交う
交流拠点・宮の
沢～

宮の沢の拠点機能を高める

【取組の方向性】

- ・オープンスペースの活用
- ・周遊・回遊のツーリズム
- ・拠点機能の誘導
- ・インフォメーション機能の充実



宮の沢のオープンな交流を築く

【取組の方向性】

- ・人材育成
- ・多世代交流、国際交流



宮の沢の暮らし・コミュニティを育む

【取組の方向性】

- ・緑・景観形成(ブランド化)
- ・見守り(シェア)
- ・顔の見える暮らし



第6章 将来像の実現に向けて

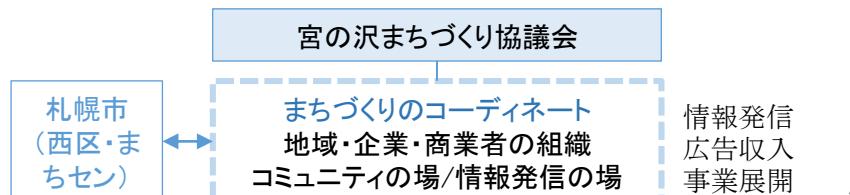
1. 取組のアクションプログラム

短期(1~2年)	中・長期(3年~)	まちづくりの コーディネート ・まちづくりを動かす仕組み ・持続可能な組織づくり
オープンカフェ 朝市やマルシェ スタンプラリー まちブラコース造成 エリアマップづくり SNSの情報発信 うわさプロジェクト シンボルロード	案内サイン整備 ★レンタサイクル ★サイクルステーション設置 インフォメーションセンター Wi-Fi 飲食機能誘導	
冬の魅力発信 イベントカレンダーの作成 ★ちえりあと連携した観光ボランティアガイドの育成 ★子どもガイドの育成 ★訪日おもてなし交流(日本文化、手稲文化)	地域ガイドの訪日客対応 多言語対応の地元ガイド育成 ★民泊	
景観ルール ★花植え・緑の管理 ★子育て、高齢者見守りのシェアリング 地域イベントとの連携 ★:8/26.27ちえりあフェスティバル、9/21ワークショップで出された意見から	★カーシェア ★サイクルシェア ★空き家改修、リノベーション	

2. 取組スケジュール(優先順位)

短期(1~2年)	中・長期(3年~)
冬の魅力発信	ターゲットに合わせて継続実施
イベントカレンダー作成	定期的に更新
カフェ・マルシェ	継続実施
マップづくり	定期的に更新・SNSと連携
まちブラコース	商店と連携・調整、ガイド付きまちブラ
ガイド育成・情報発信	訪日対応
まちづくりをコーディネートする仕組みづくり	

3. 推進体制、連携体制



8/26.27ちえりあフェスティバルPRブースの様子



9/21宮の沢まちづくりワークショップの様子

